

活動報告 2025 年 1 月～2025 年 4 月

餅つき大会、旭丘の相撲部の皆さんが大活躍！



1 月 19 日、桑原の田んぼに 70 人を超える皆さんが集まりました。久しぶりの「餅つき大会」です。沖津昭治さんがメダカの保護活動を行う市民の皆さんに御礼と、例年開かれてきましたが、今回からサポーターの会が主催者となり、昭治さんをお招きするというカタチとなりました。前月の「竹灯りの会」と同様に、「食」や「子ども教育」に取り組まれている皆さんにも声を掛け、盛大な催しとなりました。目をひいたのは旭丘高校の相撲部の皆さんがマワシ姿でチカラ自慢を発揮してくれたこと。子どもたちの出番が少なくなりましたが。美味しい突きたてのお餅と、赤松尚子さんや市議の鈴木あつこさんが中心となって振る舞ってくれた暖かい豚汁など、みんなで楽しめましたね。こうした懇親イベントへ多くの人に声をかけることで桑原のメダカのことを知ってもらい、私たちの普段の保全活動にも参加してもらえるように意識をしていきます。広がっていますよ、メダカ生息地・桑原への関心が。

パトロールに皆さんお出でになりませんか？。



これは 4 月 19 日のパトロールの参加記録写真。「野生の生き物保護区」と生息区域の田んぼ周辺を歩くこと 2 時間余り。途中、定点で水温のチェックをしたり、オオフサモなどの外来植物などの状況を監視したり、生きものや植物の姿に歓声をあげたり、皆さんが楽しんでいます。いちばん、基本的で大切な活動です。月に 2 回、第 1 日曜日と第 3 土曜日 9 時半にサポーターの会倉庫に集合です。気軽にご参加ください。これからはメダカだけでなく、水路にも田んぼにもたくさんの生き物を見ることができますよ。楽しいですよ。



こちらは、2月15日のパトロール。いちばん寒い時期ですね。この日は会員の小松宏光さんの会社、相鉄企業さんからも3名程が参加されていますね。相鉄企業さんには、パトロール用のトンゴや最新式のゴミ拾い用の資材などを寄贈していただいています。パトロールだけでなく、草刈活動にも社員の方が応援に駆けつけてくれたり、いつも助けていただいています。ありがたいですね。冬枯れの風景ですが、みんなの笑顔がとても暖かい。

オオカワヂシャ、特定外来植物です。駆除を行いました。



紫色の可憐な花を咲かせているオオカワヂシャですが、特定外来植物です。写真は田んぼのテラスの横を流れる横堰水路で駆除を行っている様子です。やっかいなのは、日本在来のカワヂシャも自生していること。その判別が難しいのです。いつもは特定外来と言えばオオフサモ、オオフサモと目を光らせていましたが、このオオカワヂシャの繁茂の状況は無視できなくなってきました。これからも定期的に駆除活動を行うことになるでしょう。4月20日の作業でしたが、12名程が参加できたので、2組に分かれ、オオフサモ駆除班、オオカワヂシャ駆除班となりました。どちらもいつものように45のゴミ袋に回収をしてゴミ処理となりました。70袋ほどになりました。水分たっぷりでその重いこと、重いこと。水に入っただけの活動は田んぼに水が入る前のこの時期が少しは水路の水量が少ないので楽なのですが、いやいやなかなかの重労働ではあります。

2025 年度定時総会が終了しました。

4 月 27 日 小田原市民交流センター UMECO にて開催されました。

会員の出席 12 名、顧問出席 1 名、委任状提出 29 名、議案書を送信したのは 65 名でしたから 24 人の方からは委任状が届かなかったことになります。

5 つの議案はすべて賛成多数で採択されましたことを報告させていただきます。

総会に先立って、事務局より長く運営委員としてチカラを注いでいただいていた加藤一郎さん、平井真吾さん、酒井由理さんが諸事情により退会されることとなったこと、新たに運営委員として川上恵美さん、小松宏光さん、赤松尚子さんが加わるようになったことの報告がありました。また、役員改選のタイミングでもあり、山田純さん、高橋由季さんの会長、副会長の留任と、新副会長として荒木成典さん、赤松尚子さんが選任され、これからの会の活動に今まで以上に尽力していただけることになりました。副会長であった赤松大介さんは運営委員として主に懇親イベント等を通したネットワークの拡大をお願いすることとなりました。(改めて議案書をご覧ください)

予告・田植えシーズンが始まります。ふるってご参加ください。

5 月 25 日(日)にめだかサポーターの会管理の田んぼ 2 枚の田植えを行います。今回はおだわら SDGs パートナーに登録している企業・学校・市民団体などにも呼びかけています。協力として「おだわら SDGs 実行委員会」も参加されます。既に皆さんにはお知らせしていましたが先着 40 名としたところ、応募多数でこちらは締め切りとなりました。

6 月 8 日(日)には、酒米の田植えを予定しています。こちらは昨年に引き続き、自然農法、田起こしをしない「不耕起田んぼ」でのチャレンジです。こちらも 40 名ほどを募ります。「おだわら SDGs 実行委員会」はこちらは不参加ですが、私たちのネットワークのなから会員以外の方にも呼びかけますので、会員の皆さん、早めに事務局に参加申し込みをお願いします。案内チラシはまもなく皆さんに送信します。

「放課後めだか」という名前の取組をご紹介します。

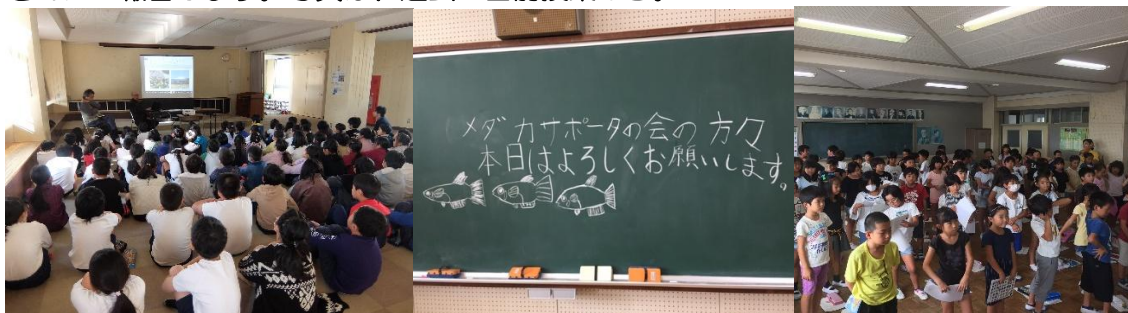


会員の赤松尚さんが、桑原の生き物たちや田んぼの風景を子どもたちに愉しんでもらおうと、「子どもの居場所づくり」を考える「森のようちえん」グループの鈴木典子さん(サポーターの会の会員でもあります)、蓮正寺子ども会グループの飯島美緒さんとともに始めたプログラムです。昨年の秋ごろからのスタートですので元気に泳ぐメダカたちと出会える

のはいよいよこれからです。小さな火を囲んだり、地元野菜のスープをみんなで作ったり、子どもたちは元気に遊びまわったり、なんだかとっても嬉しそうなのです。「放課後」という名前なので、ウイークデーの午後の時間を基本にしていますが、ときには土曜日、日曜日にも行われています。不定期の開催なので、詳しくは赤松さんに問い合わせください。090-6794-3972 まで。もちろん誰でも参加できて、毎回、20 人、30 人の賑やかな集まりとなっています。サポーターの会は暖かく見守っています。

会では、「放課後授業」という取組に参加調整中です。

こちらは、小田原市の教育総務課が取り組んでいる学童保育のひとつ。市内には27の小学校がありますが、そのうち23の学校が、放課後にすぐに自宅には帰れない子供たちに向けたプログラムを市に望んでいます。市から委託を受けた会社がそのプログラムを提供するわけですが、サポーターの会では、「出前授業」になるなと考え、名乗りをあげています。5月下旬にその打ち合わせが始まります。「出前授業」はコロナ前までは、毎年のように、主に3年生の総合授業の一環として「小田原の宝もの」という大きなテーマのもと、クラス単位ではなく、学年全員に向けて行ってきました。豊川小学校の例では、6年生向けの出前授業も行い、近いこともあり、水田ピオトープや「生き物保護区」の実体験も行いました。その代替ではないのですが、どの小学校にも30人前後はいるという放課後の子どもたちにメダカのことを話してあげる良い機会だと思っています。概要が固まり次第、皆さんにご報告します。写真は、過去の出前授業から。



市の、「鬼柳・桑原の保全整備計画プロジェクト」について。

生物多様性に富んだこの地区の環境はとても大切な小田原の財産という、加藤市長のマニフェストに私たちはチカラつけられましたね。このほど、上記の名前のプロジェクトチームが立ち上がり、動きはじめています。構成メンバーは、産業政策課、都市開発課、農政課、環境保護課の4つのセクション。メンバーを見る限り、開発を推進してきた課も含まれていますから、当然ながら「メダカの保護ありき」ではなく、開発に賛同してきた地権者の皆さんの納得もいくプランが必要となります。「市民活動を行っている民の声もきくべき」と環境保護課には申し入れをしています。先日は、プロジェクトチームが、めだか米の会と農人めだかの郷にヒヤリングに見えました。近く、サポーターの会のヒヤリングも予定されスケジュールを調整中とのことです。山田さんが打ち出している「めだかの郷」構想が指標になってくれたらと願います。

